

3度目のソウル近郊ハイキング (下)

2019.5.28~31 関根茂子

■5月30日(木)晴

今日は、私たちだけでのんびりハイキングだ。6:30ロビー集合。市庁駅地下鉄構内でキンパブ2本を購入(@2,500₩×2)。1号線を清涼里駅7:15~35で京義中央線に乗り換える。表示に導かれるままにたどりついた京義中央線ホームで電車を待っていると、今度入線の電車の行き先が違っている。次発が私たちの乗るべき電車ヤンウォンで浅川巧墓参ハイキングの下山駅、養源を通り越し新しく立派な駅の雲吉山駅へ着いたのは8時過ぎだ。郊外へ向かう地下鉄電車はどの線も結構、込んでいてなかなか座れなかった。ソウル市は人口増で郊外に発展中ということだろう。

待合室でキンパブの朝食後、8:40出発。事前に雲吉山のハイキング記録をネットで調べた通り西へ戻る形で進み、ハングルの道標を確かめ左折、ここにお馴染みの泥落としの空気噴射機が設置8:47されていた。ガードをくぐって小さな川沿いに山の方へ集落の道を道標のハングル「운길산(雲吉山)」目当てに進むと、角に「山頂2.8km」の道標9:04を見る。

左折してナワシロイチゴ、バイカウツギ、チョウセンニワフジなどの花を数えて上っていく。「駅まで1.2km」「雲吉山2.5km」「水鍾寺1.7km」の道標9:11を過ぎ、さらに車道を上るうちに9:17左手の谷側に土道が分かれている。持参の韓国200山の地図では谷筋に登山道の赤線が入っているので、車道の登りはイヤとこの土の道に入り、左手の谷へ下がらないように巻き続きの道を登っていく。

途中で山火事注意の横断幕?を目にし、ルートに間違いないとホッとす。小尾根に登り着き小休止(9:30~37)。尾根道を行くと後ろから年配の韓国人男性が追いついてきて話しかけられる。「お寺に行く」という私たちを待っては、先にたって道案内する格好で登ってくれた。途中休憩1回で急登をがんばり10:23お寺への分岐(道標はない)に登り着いた。

ここからなだらかな巻き道を10分足らずで林道に出た。左に下ると「寺1km」の道標があり、不二門に導かれる。参拝者に交じって石畳の参詣階段を登っているうちに男性の姿は見えなくなってしまった。

上り着いた10:42お寺の本堂前の展望テラスからは、ゆったり流れる漢江ハンガンが見下ろせた。さて、「登山道の続きは?」と見回すと、境内の左手に階段があり上にお堂が建っている。「これかな?」念のため登山者風の男性に聞いてみれば違った。登ってきた階段道をいっしょに下りて彼が教えてくれたのは、不二門の先にあった左の林へ延びる階段だ。「雲吉山0.8km 駅2.8km」道標10:51から階段を登りだす。こわれた膝には階段は大変なので、すぐ左手に現れた土の小道に入ったが、これが段差も大きく足場も悪く、這いつくばったり杖にすがったり苦勞して登ると左から階段道が合流。

ひと休み(11:12~26)して、正規ルートのおよくなった道に行く。駅への下山口道標を過ぎると行き止まり。高みの休憩台に休んでいる人たちに「山頂はどっち」と聞くと、休憩台手前を右に下りると案内してくれる。



チョウセンニワフジ



靴の泥落とし空気噴射機設置所



水鍾寺からの漢江の眺め

分岐を見落とししたのだ。下りた所がヘリポート 11:34 になっていた。

岩のごろごろした斜面を右に見ながら巻き登山道をたどり、やっと山頂(11:45~12:35)に着く。登山地図には寺から40分のところ1時間かかった。展望台テラスもある。山名石標と谷向こうのイエボンサン禮峰山をスケッチに収め、昼のパンを食べて大休止していると、縦走路から若者3人組が現れた。残り物の魚の佃煮をあげるとなんと冷たいウリが差し出される。ナイフで皮をむいて切り分けてサービスしてくれた。

戻って、行きに確かめておいた雲吉山駅への道標12:55について下ると、なんとお寺からの階段登山道に合流してしまった。キツネに化かされた気分だ。そのまま下れば、思った通り登り始めた不二門の先の階段登山口13:13だ。

さて、下山路は? と登山地図を見ると広い車道下りでも駅には行かれるが駅より2km近く遠い地点に下りつくようだ。元来た道の方が駅に近い。案内された巻き道をとって見覚えの尾根13:30に戻り着く。そこからは尾根通しの最もよく踏まれた道を選んで下る。地図に赤線が入っていない踏まれた尾根道を「登った道とは違うな」と思いつつ進む。やっと同方向を指す道標「雲吉山1.3km お寺0.78km」13:50を見た。左手へ下る道を見送り、いっこうに高度をさげない尾根道をさらに進む。14:00下りにかかり8分後、左ヘジグザグに下り幅広の土道14:12に下りつく。登りの男性と行き違い、舗装車道に出ると向かいには切株ベンチの広場(14:20~25)だった。ウルシの植林地をみて車道を下る。

いよいよ名物のウナギを食べる所を探そうと最初に

見つけた集落の角のウナギ加工所に飛び込み、食べる手真似をすると若者が車で食堂に連れて行ってくれた。そこは行きに車道を上り始めた地点の角だった。ここへウナギを卸しているのだろう。卓に炭火が入り、網の上に切り分けた2匹のウナギがながなが乗せられ、しばらく焙ってから切り口を下に立ててさらに焼く。タレの皿にはワサビが添えられている。焼けたウナギをタレに漬けてワサビを添えて、レタスやエゴマの葉っぱに置き、針ショウガを乗せてからくるんで口へ運ぶ。これは、いける。おいしかった。(14:40~15:20、2人前64,000W)

帰りは雲吉山駅1548発の電車を清涼里の1つ手前のフェギ回基駅で1号線に乗り換える。小さい駅なので乗換通路も短く分かり易かった。ホテルには17:00過ぎに帰着。コンビニでアイス購入(1,800W)友人が日本から持参した即席焼きそばを夕食にする。

■5月30日金曜日晴

荷物をロビーに預けて、8:00南大門市場見物に出かける。市場はビルに開発中、食べ物を売る店を求めて歩き回ると同じ商品を扱う小さな店が立ち並んでいる。うどん屋横町では座って食べるように勧められるがおなかはずいていない。S姉が「食べたかった」とブドウを買ってきたので、シャッターの閉まっている店の前で立ち食い。その横の肉まん店で買った饅頭をKさんが分けてくれる。

歩き回るうちに土産物店街に出合い、友人は韓国絵模様の透かし彫りのしおり(@2,000W)をいくつか買っていた。わたしはイチジクの乾燥果実に珍しさを覚え、1袋10,000Wで購入。その店に引き込まれ、Tさんは五味茶を、私とS姉は蜂蜜入り柚子茶(1箱20本入り15,000W)を購入。10時過ぎにホテルへ戻り、お土産を含めて改めて荷造りして10:30空港へ向かう。地下鉄市庁駅への道すがら、最後に買おうと決めていた落花生(1袋2,000W)を露店で購入。

市庁駅から仁川空港行きのホームから直通電車に乗車、空いている。座って安心していると途中駅止まりだったのだ。第1空港ターミナル駅で下車、空港まで結構歩いて、搭乗手続きを終えて残金で昼食ムルメンミョンとハンバーグ添え(@15,500W)を食す。それでも一人22,500Wの戻り金があった。

15:10発イースター航空ZE603便は成田17:30着、21:00過ぎ帰宅できた。(完)